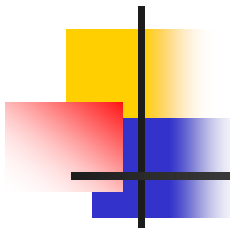


日本の学校—現実と未来— ＝総括＝

東京大学21世紀COE基礎学力研究開
発センター：第5回シンポジウム

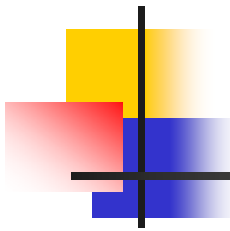
2006年8月29日

佐藤 学



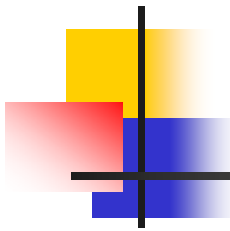
20年前・現在・未来

- 20年前より学力低下・今後も低下
- 20年前と教師の指導力＝変化なし＝今後、の社会への教師の対応力に不安
- 学校が直面している中心課題＝家庭と地域社会の崩壊
- 学力問題が生成する場＝20年前は農漁村＝現在は都市郊外
- 行政改革への不信と格差社会への危惧



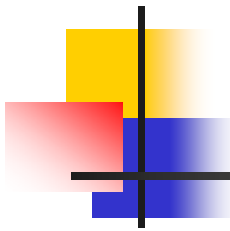
学力問題の社会的文脈

- 学力形成の社会基盤＝安定性とその変動
- 学力形成の二つのベクトル＝修復と革新
- 教師の障碍＝学校の内部条件よりも家庭と地域の変動（学校と家庭・地域の関係）
- 速すぎる改革・過剰な改革＝現場の直面する問題との乖離
- 行財政改革への不信と批判
- 学校選択制＝意見は二分＝格差の拡大



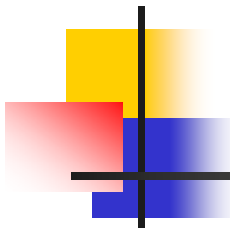
学力像と学力評価

- 校長の学力観＝教科書内容、計算や漢字のドリル学習、個々人のつまづきへの対応
- テストの有効性＝学校で作成したテスト＞学校外で作成したテスト＞都道府県の標準テスト、学校外の検定テスト
- 氾濫するテストの指導改善へのフィードバックは？



社会変動と学校

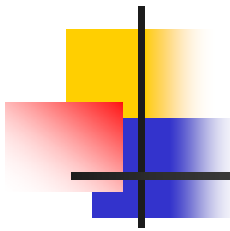
- <低下>より<格差>が問題化
- 階層間格差＋地域間格差
- 教育環境（家庭と社会）の劣化は深刻
- 教師の資質・能力＝変化なし＝複雑化する現実と未来社会への対応に不安
- 学校への信頼と支持＝悪化傾向
- 学校の内的危機と学校を取り巻く危機＝いずれも構造的問題＝無策ではないか？



教師の研修

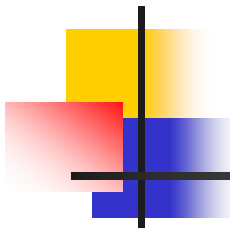
研修の重要性と有効性は、小学校、中学校とも認識されているが、必要に見合った質と量の研修は実現していない。

- 教育現実の複雑化、教育の高度化・情報化に対応したレベルには到っていない。
- 研究授業による研修＝小学校の一部では積極的だが、中学校では今も低調。
- 教職大学院の新設、免許更新制の導入の有効性については懐疑的。



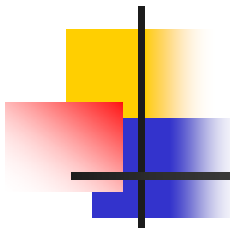
学校の経営

- 学校を取り巻く環境の劣化
- 学校と地域の連携＝学校独自の取り組み(クラブ活動の支援など)＝住民による授業、教育活動の支援
- 学校長の裁量と権限の拡大
- <参加>と<信頼>がキーワード
- 教師の学びを主導する校長のリーダーシップの必要性(管理型からの脱皮＝検討課題)



学校の条件整備

- 少人数学級(34%)導入の肯定的評価
- 加配教員の非常勤比率(ALT98%)
- 市町村教育委員会の人事権(69%)
- 人確法廃止は教育水準の低下(78%)
- 優れた人材の確保は今後困難(68%)
- 市町村への権限移譲の模索
- 教員給与削減に対する危機感



研究課題への示唆

- 学力問題の拡張＝＜低下＞問題から＜格差＞問題へ＝学力の危機から学校の危機へ
- 学力（量）から、学び（質）と教師（質）へ＝不十分
- 家庭と社会の変貌＝学校と家庭・地域社会の関係を改革課題に＝信頼される学校、家庭・地域との連携
- 教育改革（行政改革）と現場の危機感との乖離
- 21世紀型公教育システムのグランドデザインへ（質と平等の保障、当事者責任による信頼と連帯、権限と財源と責任の再分配、未来投資の改革へ）